

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	花うさぎkids		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月1日	～	令和6年 12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54名	(回答者数) 54名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月6日	～	令和6年 11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	STEMボックスのプログラミングや2階での感覚統合療育など、幅広く興味のある活動を取り入れ通所が楽しくなる療育を行っている。	STEMボックスの教材を使用して、「問題解決できる人」「表現ができる人」「想像できる人」を育てていく。楽しい活動から自信をもって活動できるようになり、自己肯定感を育むことを意識して支援している。	STEMボックスに取り組みたくさんの活用事例を知りアイデアが増えることで、知識を活用する力を育むことができる課題を設定して、状況に応じてどのように行動すればよいか等、自分で考えて行動できるように支援する。
2	基本的な生活スキルを獲得できるよう、身の回りのことは自分で行っていけるよう習慣化したり、自立に向けた作業を取り入れることで、自分で取り組むことの意識を深め、自分でできることを増やしていく。	身の回りのことを中心に出来ることを増やしていき、一つ一つの精度をあげていけるよう細か部分に注意して取り組む。 私物や教材の片付けなど視覚支援を使用し分かりやすくしている。	成功体験を積みながら自信を付ける。 取り組む内容や意味を理解して行えるようになり、自発的に取り組めるように仲介する。
3	他の利用者と関わりながら非認知能力を養えるような活動や遊びを取り入れる。	活動の目的や目標を意識して取り組む。 活動やルール遊びを通じて、集団行動や他者への気持ちを考えて行動すること、忍耐力、協力、目標に向かってやり抜く力、自制心、感謝する心、他者に相談できる力等、生きていく力を育む。	自分の課題を把握して、状況に応じてどのように行動すればよいか等、考えて行動できるように支援する。 できた部分の成果が見えにくい為、評価していることをわかりやすく伝え、能力の定着を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職務に必要な知識、関連業務に関する知識について、従業者のスキルアップが必要である。	マンツーマン対応が必要な利用者が増えており、職員のスキルアップが求められている。一人一人が利用者との関わり方に自信をもって取り組めるようになり、色々なスキルやアプローチの方法等を身に付け、あらゆる場面もどの職員も対応できるように取り組む必要がある。	研修や勉強会、事業所間の交流会などを行い、より障害の特性などの理解を深め、利用者や保護者への対応がより適切なものとなるよう努める。
2	一人一人の特性に応じた活動内容や環境整備、より専門的な療育(個別療育)を強化していくこと。	利用者によって活動内容が難しかったり、物足りなかったり等、調整の難しさがある。個別療育の時間になってもスムーズに移行できなかったり、集中力にかけてうまく取り組めない場合がある。	今から何をするのか一つの活動について本人にわかりやすい手順書を準備し、それぞれの特性に合わせた活動内容となるよう調整する。 取り組みやすい環境の調整や、本人がやる気がでる課題への変更を検討するなどの工夫が必要である。
3	外出活動や社会科見学等の活動数を増やし、地域連携の取り組みを検討していく。	要望の多い外出活動について、十分な職員配置を行い、安全に活動できる体制と職員スキルが整っていない。	安全に活動できるよう十分な職員配置、利用者の人員編成を行う。 利用者が落ち着いて行動することができるよう事前学習を行い、職員に対してはシミュレーションによる行動把握等の準備を行う。